

アユの冷水病 (BCWD)

Flavobacterium psychrophilum



冷水病原因菌のコロニー



冷水病の症状(下顎のびらん)

発生生態

濃黄色のコロニーを形成する細長い細菌です。水温15°C前後でよく増殖します。発病魚は下顎や鰭、体表に出血やびらん、潰瘍を生じます。元はさけ・ます類に見られる病原菌でしたが、後にアユからも分離され、種苗の移動や放流を通じて全国的にまん延するようになりました。

防除対策

養殖場では導入卵や水槽の消毒などによる予防、発病時には昇温処理や投薬が有効です。天然河川での被害を抑えるためには、本菌未保有のアユを放流することや、適切な放流時期を選ぶことが重要です。また、別河川で買ったおとリアユを異なる河川で使わないなど、遊漁者の方々の協力も必要です。